

人工衛星WorldView-2がとらえた「皇居周辺」

データ提供：日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社

データ処理：東京理科大学・国土情報工学研究会

本誌98号から「人工衛星WorldView-2から見た国土の姿」を紹介してきましたが、この企画も本号で最終となります。下図は、「皇居」周辺のトゥルーカラー合成画像（Pan-sharpened image：地上分解能0.5m）です。パンクロマチック画像(地上分解能0.5m)とマルチスペクトル画像（地上分解能2.0m）を合成した画像です。1868年（明治元年）10月に徳川幕府の居城(江戸城)の跡地が皇居となり、翌年（1869年）3月に明治天皇が京都からこの地に移って現在に至っています。鮮やかな青色を呈する宮殿の屋根が目を引きます。天守閣跡、吹上大宮御所、宮内庁、国会議事堂の位置関係が良く判ります。これらの建造物と比較すると、皇居を取り巻く堀の大きさに驚かされます。現在も進化を続けているリモートセンシング（遠隔探査技術）を通して、先人の土木技術力の高さを窺い知ることができます。

WorldView-2 Pan-sharpened image (True-color)

(C) DigitalGlobe / 日立ソフト

Observation date : January 24 , 2010 Ground resolution : 0.5m/pixel



Blue plane : Blue Band (450nm ~ 510 nm) Green plane : Green Band (510nm ~ 580 nm) Red plane : Red Band (630nm ~ 690 nm)

過去の「国土の姿を見る」画像集は次のURLでご覧いただけます。http://www.jacic.or.jp/books/jacicjoho/kokudo/kokudo_index.html